

豪華船「きそ」が誘う 心躍る太平洋クルーズ

文：丸茂健一 写真：松澤暁生



肩のこらないおしゃれをして、パートナーや友人と楽しむ1泊2日の豪華船の旅。快適な個室で過ごしつつ、夜はジャズやクラシック、歌謡曲等の船上ライブを堪能……。

そんなちょっと贅沢な船旅を国内の定期運航フェリーで気軽に体験できることをご存じだろうか。

「フェリーと聞くと退屈でツライ旅をイメージする方が多い。我々はとにかくそのイメージを払拭したかったんです。リーズナブルな料金で単なる移動が贅沢な旅の時間に変わる。『乗る』ではなく『過ごす』船旅をぜひ体験してほしいですね」

そう語るのは、太平洋フェリー東京支店長の丹羽裕幸さん。

もともとニーズが多かった定期航路の仙台～苫小牧間に同社のフラッグシップとなる「きそ」を投入。旅客部門を強化するため、広いスペースを確保した個室を大幅に増設(全147室)。リビングを配したロイヤルスイート、スイートというラグジュアリータイプの客室がある。定期運航フェリーとしては画期的だったこの試みに、船旅愛好家たちは敏感に反応した。

「ロイヤルスイートは運航2カ月前の発売日に、30分くらいで予約が確定します。スイートもほぼ同様です。近年ますます、時間にゆとりをもって『旅』という非日常を楽しむニーズが高まっています。それに応えるため、個室中心の客室配置は必然のものでした」

こうして「きそ」は、05年から07年まで「フェリー・オブ・ザ・イヤー」を連続受賞する。

(中略)

19時にビュッフェスタイルの船上レストラン『タヒチ』がオープンする。和洋中を織り交ぜたメニューは約20品目。目の前で焼き上げられたステーキとオリジナルの赤ワインを楽しんでいると、出航を告げる銅鑼(どら)の音が船内に響いた。

全長約200m、総重量約1万6千トンの豪華船がゆっくりと海に解き放たれる。振動はほとんどない。旅の幕開けは、思いのほか、静かなものだった。

夕食後、21時から始まるシアターラウンジの無料ライブに足を運んでみた。当日は、金井江里さん(ピアノ)、後藤優子さん(ヴォーカル)の女性デュオによるクラシック系のパフォーマンス。ほろ酔い気分の乗客が目を閉じて、プロミュージシャンによる本格的なライブに耳を傾けている。曲目は、映画『太陽がいっぱい』のテーマ。心地よい揺れと生で聞くピアノの透きとおった旋律に身を任せていると、しばし時間が経つのを忘れてしまう。アンコールでは、女性ヴォーカルが歌う『千の風になって』で会場がひとつになる。ステージ後、ヴォーカルの後藤さんは、「他の会場では味わえない一体感がある」と笑顔で語ってくれた。

(中略)

翌朝 4 時に起きて、スカイデッキに上がってみる。淡いピンク色に染まった水平線から、真っ赤な太陽が顔を出した。太平洋の大パノラマの中、ひんやりとした潮風を浴びていると一瞬、このまま異国にたどり着いてしまうような錯覚に陥る。

しばしの仮眠後、ビュッフェスタイルの朝食をすませ、展望大浴場へ。壁一面の大きな窓から青い海を眺めつつジャグジーの泡とたわむれる。ここでしか味わえない貴重な体験である。

(後略)

太平洋フェリー

<http://www.taiheiyo-ferry.co.jp/>

ノジュールは定期購読雑誌です。本記事より先を読みたい方は、以下のボタンから年間購読をお申込みください。